〈平成16年６月初版発行　第６改訂平成29年６月　監修：沖縄県〉

ハブに注意！

沖縄県の陸上には22種類のヘビが住んでおり、そのほとんどが琉球列島だけに住む貴重なヘビです。毒ヘビは８種類いますが、その中で危険なのはハブ、ヒメハブ、サキシマハブ、タイワンハブの４種類だけです。なお、海に住むウミヘビ類による被害もきわめてまれです。ヘビは、人間に害のない種類が多く、自然界の大切な仲間であることを忘れてはなりません。ハブの祖先は、琉球列島が大陸と陸続きだった数百万年前にやってきました。その後、海水面の上昇と下降を経ていくつかの島ができました。このとき、水没した島ではハブが絶滅し、宮古島や久高島のように、ハブのいない島ができたと考えられています。ハブのいる島といない島が一つ置きになっているという言い伝えがありますが、実際には規則性はありません。タイワンハブは、中国大陸や台湾に分布するハブの仲間ですが、沖縄本島中北部に持ち込まれたものが逃げ出して定着しています。また、サキシマハブが沖縄本島南部に定着しています。

琉球列島のハブ類の分布



ハブのいる島

沖縄本島、伊平屋島、野甫島、屋我地島、古宇利島、伊江島、水納島、瀬底島、渡名喜島、久米島、奥端島、渡嘉敷島、儀志布島、城島、黒島、伊計島、宮城島、平安座島、浜比嘉島、藪地島、〈浮原島〉

ヒメハブのいる島

沖縄本島、伊平屋島、野甫島、具志川島、伊是名島、屋那覇島、屋我地島、伊江島、渡名喜島、久米島、座間味島、安室島、阿嘉島、慶留間島、外地島、屋嘉比島、久場島、渡嘉敷島、儀志布島、城島、黒島、前島、仲島、端島

サキシマハブのいる島

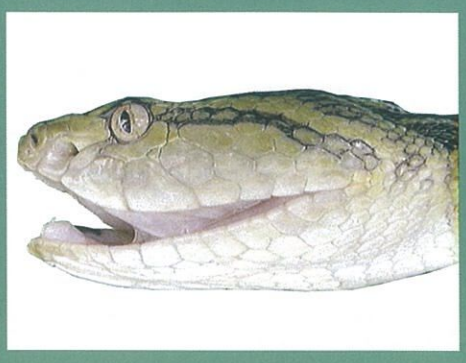
石垣島、西表島、外離島、内離島、小浜島、竹富島、黒島、嘉弥真島、沖縄本島（移入）

タイワンハブのいる島

沖縄本島（移入）

〈　〉内は未確定







ハブの見分け方



① 体の色と模様、形、大きさで見分ける。

大部分のハブの背中は、黄色地に黒い複雑な模様ですが、白色地の「銀ハブ」もいます。沖縄諸島に住む大型（全長1.5ｍ以上）のヘビは、ハブ、アカマタ、タイワンスジオです。30㎝以下のヘビは、ハブではありません。

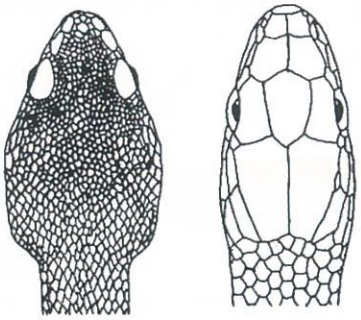
②頭のウロコの大きさで区別する（ぬけがらでも可）。

ハブの仲間の頭は、細かいたくさんのウロコで、その他のヘビでは大きなウロコでおおわれています。

③ 胴体のウロコの数で区別する（ぬけがらでも可）。

背中（胴回り）のウロコの数は種類によって決まっています。ハブの仲間は20列以上あります（無毒のタイワンスジオも20以上）。

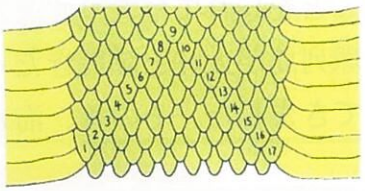
頭のウロコの違い



ハブ類　　アカマタ など

胴体のウロコの数え方

（胴の中央部をななめに）



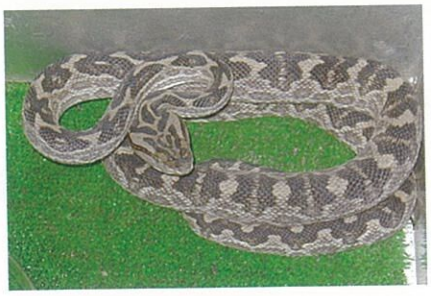
●ハブ	およそ	37	アマミタカチホヘビ	およそ	23
●タイワンハブ	〃	27	ガラスヒバァ	〃	19
●サキシマハブ	〃	25	アカマタ	〃	17
タイワンスジオ	〃	25	リュウキュウアオヘビ	〃	15
●ヒメハブ	〃	23	ハイ	〃	13

（ ● は危険な毒ヘビ）

ハブは地域や個体、脱皮の状態によって色や模様が違います。

















ハブの生態（一部は他のハブ類に共通）

ハブの活動

ハブは夜行性なので、昼間は穴の中などに隠れていて、薄暗くなってから活動を始めます。湿度が高く暖かい夜によく活動します。冬には活動は鈍くなりますが、冬眠はせず、少し暖かい夜には活動します。高温には弱く、直射日光下では短時間で死にます。

ハブのいる場所

ハブは、主に林や草地に生息していますが、街の小さな公園などにもいることがあります。隠れ家と餌（ネズミ類）があれば、ハブがいると考えた方が良いです。目撃は林や草地から50m以内に集中しています。もっとも、近くにハブが生息していても、見かけることは稀です。

ハブの大きさ

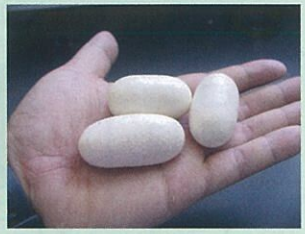
ハブは孵化してから２～３年で１m前後に成長し、成熟します。成熟した個体は、成長のしかたも遅くなります。他のヘビ類同様、脱皮をしながら成長し、成体で年に２～３回脱皮をします。よく見かけるハブの大きさは、全長１～1.5mの間です。沖縄県での最大記録は２m42cmで、飼育下での最長寿命は21歳です。

ハブの繁殖

ハブの交尾は３月から５月にかけて行われます。産卵は、６月下旬から７月で、長さ約６cmの楕円形の卵を、２～15個産みます。ハブの卵の殻は鳥の卵とは異なり固くないので、触ると弾力性があります。産卵から約１ヶ月半後（８月下旬から９月）に、全長約40cmの仔ハブが孵化します。孵化したばかりでも毒を持っています。



産卵直後のハブ



ハブの卵

ハブの餌

ハブの餌は、大部分が小哺乳類（ネズミ類、ジャコウネズミ[ビーチャー]など）です。ウサギ、ネコなど、自分の頭よりも大きな餌を呑み込むことができます。小さいハブはトカゲ類などの爬虫類も食べているようです。飼育下で餌を食べずに３年間生きた例もあり、飢えには強いです。



ドブネズミを食べたハブ

ハブの行動

ハブは攻撃する時、体の上半身をＳ字型に縮めて構えます。その縮めた部分をすばやく伸ばして、咬みついてきます。ジャンプはしません。全長の2/3が最大の攻撃距離なので、それ以上離れていると安全です。

ハブは木登りや泳ぎも得意です。木の上も注意しましょう。穴の中などを住みかにしていますが、自分で地面に穴を掘ることはできません。

ハブの毒

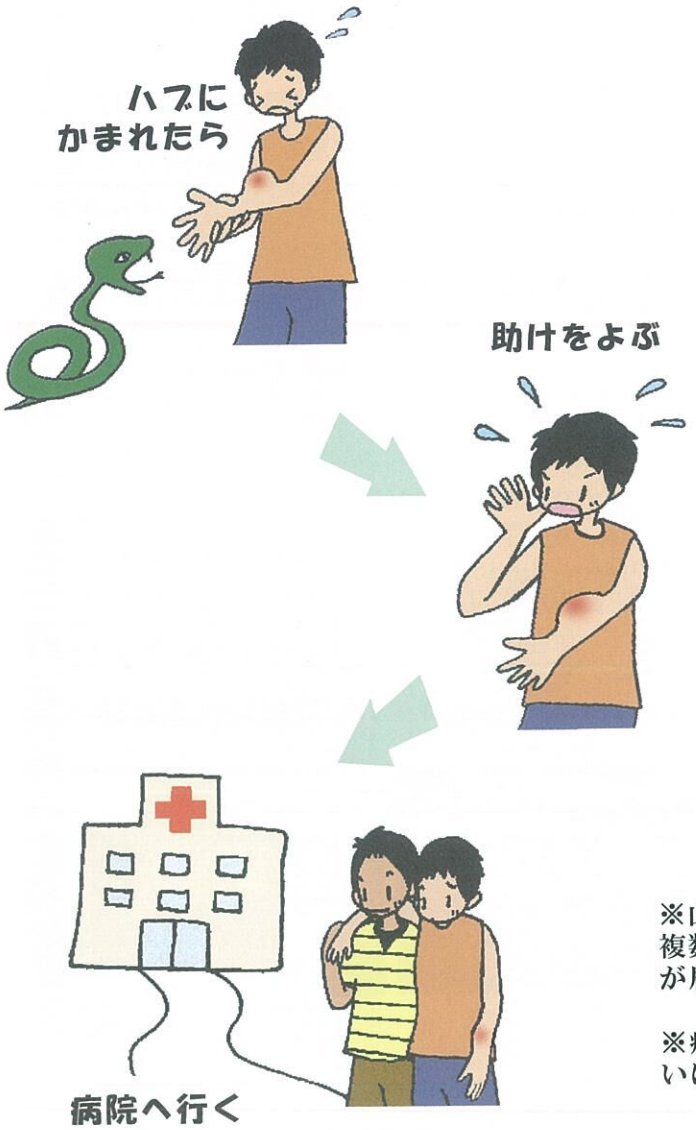
ハブの毒牙は注射針のような構造で、先端付近から黄色い毒液が出ます。数回分の攻撃に使える量の毒を、毒腺に溜めています。毒の強さは、ハブを10とした場合、タイワンハブで11、サキシマハブで４、ヒメハブで２くらいです。毒牙は、年に数回生えかわります。



ハブの感覚

ハブは、他のヘビ類同様、嗅覚が優れています。舌をペロペロ出して臭いの分子を集め、口の中にあるヤコブソン器官で臭いを感じます。視覚も良く、動くものに対しては敏感ですが、聴覚はほとんどありません。また、ハブの目と鼻の間には、赤外線（熱）を感じ取るピット器官があり、餌のネズミや外敵の体温を感知します。ピット器官は、ハブやマムシの仲間（マムシ亜科）とニシキヘビの仲間（ボア科）だけが持つ感覚器官です。

もし咬まれたら（ハブ類に共通）



❶ まず、あわてずに、ハブかどうかを確かめます。

ヘビの種類が分からなくても、ハブなら牙のあとが普通２カ所（１カ所あるいは３、４カ所の時も）あり、５分もしないうちに腫れてきてすごく痛みます。

❷ ハブだとわかったら、大声で助けをよび、病院へ連れて行ってもらいます。

走ると毒の回りが早くなるので、車で病院に運んでもらうか、ゆっくり歩いて行くようにしましょう。

❸ 病院まで時間がかかる場合は、指が一本通る程度にゆるく縛ります。

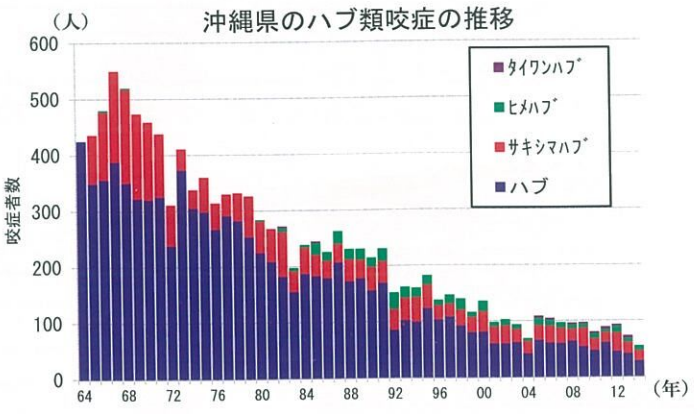
包帯やネクタイなど帯状の幅の広い布で、咬まれた部位よりも心臓に近い部分を、血の流れを減らす程度にゆるく縛ります。15分に１回はゆるめましょう。決して細いヒモなどで強く縛ってはいけません。恐怖心から強く縛ると血流が止まり、逆効果になることもあります。

※山間地など医療機関から遠い場所での作業は、可能な限り複数人で行いましょう。万が一に備え、携帯電話の通信電波が届くか確認しておきましょう。

※痛みや気分を紛らわせるために、鎮痛剤やお酒を飲んではいけません。

ハブの被害状況

ハブの毒は、タンパク質を分解する出血毒で、人体に入ると毛細血管を壊すため、腫れと痛みをもたらします。症状は、咬まれた部位と体に入った毒量、ならびに体質などによって決まります。ハブは口を開き、頭を打ち付けるようにして咬みます。２本の牙は、生え替わり時には４本あるため、咬まれた牙の痕は１～４カ所になります。咬まれても毒が入らないこともありますが、毒腺に溜めた毒は一度に一部しか使われないため、続けて咬まれると毒量が増えます。沖縄県でのハブ類による被害数は、復帰前には年に400件以上で、数名が死亡していましたが、最近では年に100件前後で、死ぬ人もほとんどいません。ハブに咬まれる場所は畑が最も多く、全体の40%を占めます。咬まれる部位は、手の指が約50%を占め、手足で90%以上になります。これは、手足の先が最初にハブに近づきやすいためです。ハブは主に夜行性なのに被害が日中に多いのは、農作業など日中の作業時に、休んでいるハブに人が近づいて咬まれることが多いからです。このように被害の状況は、人の活動に大きく影響されます。直接咬まれる被害以外に、「咬まれるかもしれない」といった精神的な被害も大きいです。ハブの目撃件数は、咬まれる件数の200倍以上で、年間２万件以上と推定されます。



ハブへの対処法（ハブ以外のハブ類にも共通）

ヘビが出たら

① できればハブか確認します。すべてのヘビを怖がる人が多いですが、人が出合うヘビの多くは無害です。写真などでヘビの区別ができるようになりましょう。

② ハブなら、屋敷や畑などで見失えば恐怖が残りますので、すぐ棒でたたく、「ハブノック・ネオ」をかける、車でひくなどします。生け捕りは大変危険ですので絶対にやめましょう。

ハブを逃がしたら

●穴の中へ逃げたら

スプレーを試します。殺虫スプレーでハブが出てくることもあります。

●屋内で逃がしたら

リング状に裏返したガムテープなどの粘着材を、壁ぎわに数メートルおきに固定します。通りかかったハブが、ひっつきます。

●屋外で逃がしたら

ハブ捕り器を置きます（役場で貸し出し）。

捕らえたり殺したら安心？

1匹いたら近くにもっといるかもしれません。周辺の草刈りと廃棄物の処理、隠れ場所や産卵場所となる石積みの穴埋め、さらに塀やフェンスを造るなどの環境整備が、長期にわたって効果がある対策です。

農作業や草刈りの時の注意

これらの作業時にハブの被害がもっとも多く、全体の60％あまりになります。必ず長靴をはきましょう。見通しの悪い草むらでの作業は、最初に草刈り機を用いるようにし、鎌などによる手作業はできるだけ避けましょう。

手首より先だけの被害で、全体の60％以上をしめます。草刈りや石積みの穴埋めなど環境整備が重要です。

山歩きやキャンプの注意

ハブの被害のなかで山林で起こるものは約５％と少ないです。しかし山奥で咬まれると、治療まで時間がかかりますので、とくに注意しましょう。日中の山歩き中でも、日陰ではハブを見かけることもありますので、気をつけます。草むらを歩いたり、木の洞などの穴の中に手を入れるのは危険です。長靴、ブーツ、防具などを着用します。万一に備え、応急処置法ならびに血清のある診療所などの場所と電話番号を確認しておきます。夜間は懐中電灯を持って行動し、テントのファスナーを閉めます。テントの周りにイオウをまいても、ヘビを遠ざける効果はありません。

その他の方法

施設や畑などの新規・改変工事の計画に、ヘビ用フェンスの設置や石積みの穴をふさぐなどの対策をとり入れると、工事完了後に安心です。一方、山林・原野をくずす工事の際は、ハブをばらまかないよう、現場をフェンスで囲います。

ハブについての誤解を解く（ほとんどがハブ類に共通）

- 琉球列島ではヘビは冬眠しません。冬でもハブが出没します。
- アカマタのいるところにも、ハブはいます。
- ハブは、生まれた時にすでに毒を持っています。
- 音が聞こえないヘビは、口笛に引き寄せられません。
- ハブはジャンプできません。ハブから1.5ｍ以上離れていれば、攻撃範囲外です。
- 一度でも車でひいたり、たたいて大けがをさせたハブは、やがて死にます。
- 牙を取ったハブにも注意しましょう。牙は年に数回生えかわります。
- ハブは、近づいても逃げない場合がありますが、人を追いかけません。
- 咬まれてから数時間たっても血清注射の効果があります。なお、素人は注射できません。
- 近くに草むらや林がある地域では、たとえ見たことがなくても、ハブがいる可能性が高いです。
- いろいろなヘビを「ハブ」と呼ぶ人もいますが、標準語ではまとめて「ヘビ」といいます。
- ハブは、現在いない島でも増えるかもしれません。いない島の砂も嫌いません。
- ハブはイオウやホウセンカを嫌いません。
- ハブ捕り器に入れるネズミは、遠くのハブまで呼び集めません。

ハブ対策用の道具

（価格や入手先などは、変更されることあり　※2017年6月現在）

ハブ捕り器　9,288円

ネズミを食べに来たハブ類を生け捕る道具。ネズミの餌と水を補給しながら、数カ月間日陰に設置。見回りは１～３週ごとに。捕れたら網の部分にさわらず、丸ごと袋か箱に入れて運搬・保管。各市町村役場で本体を貸出し。購入なら公衆衛生協会まで（他にハツカネズミとネズミの餌が必要。餌は大粒のドックフードで代用が可）。

誘導式三角トラップ　4,320円

ネズミを使わずに、フェンスや壁などに沿って移動してきたヘビを生け捕る道具。メイクマンや公衆衛生協会などで販売。

ハブ用フェンス

屋敷や畑へのハブの侵入を防ぐには、ブロックや網のフェンスが必要。造ったあとの草刈りなどの管理が大切で、フェンス沿いの生コン敷きがお勧め。ナイロン網のフェンスは、１ｍ幅の網をヘビがいる側に60度に傾ける（高さ60～70㎝）。黒色６㎜目の網は公衆衛生協会で販売、50m巻きで7,128円、支柱などは資材屋などへ。相談・資料・見本などは衛生環境研究所へ。

石積みの穴埋め

ハブの隠れ家・産卵場所となる石積みなどの穴をセメントで埋める。一部の市町村で材料費を支給。次善策は、ハブが嫌う灯油を年１、２回吹き込む（ハブの飛び出しに注意）。

啓発用ＤＶＤ

ハブの習性・被害・対策法などをまとめたＤＶＤ。
保健所などで貸し出し対応。

ハブを殺すスプレー「ハブノック・ネオ」　3,000～4,000円

殺虫スプレーに似た製品で、薬剤が直線状に約３ｍ噴射。薬剤のかかったハブは２～３時間後にほとんど動かなくなり、その後死亡する。ヘビが動かなくなっても、しばらく手で触らないように。ホームセンターや農協、公衆衛生協会などで販売。

ガムテープで作るわな（屋内用）

屋内で逃げたハブをひっつけて捕らえるために、市販のガムテープを15㎝ほどの長さに切り、粘着面を外側にした輪を作り、部屋の隅などに貼る。ガムテープにひっついたハブは、自力で剥がせない。

追い出しスプレー

ハブが穴に逃げ込んだ場合、第２石油入りの市販の殺虫スプレーを吹き込むと、出てくることも。パイン畑で逃がした場合は、薄めたクレゾール石鹸の噴霧で出ることも。

刺し網

漁網や防鳥ネットで、ハブを絡め捕る。目合２～３㎝の網を石垣などに設置すると、大きめのハブが捕れる。
絡まったハブが生きていることがあるので、設置場所等は注意が必要。

ハブはさみ棒　11,880円

手元のレバーを握り、ハブをはさむ。専門家用で素人による生け捕りは危険。公衆衛生協会で販売。

ハブやその対策についての質問・相談先

沖縄県保健医療部衛生薬務課 …… 那覇市県庁内
TEL 098-866-2055　FAX 098-866-2723

沖縄県衛生環境研究所ハブ研究担当 …… うるま市兼箇段
TEL 098-987-8223　FAX 098-987-8210
ホームページ http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken

(財)沖縄県公衆衛生協会（道具の販売など）…… 南城市大里
TEL 098-945-2686　FAX 098-945-3973

各福祉保健所

市町村役場のハブ担当課（ハブ捕り器の貸し出しなど）
※課の名称は市町村により異なります

沖縄本島北部及び離島のハブ抗毒素常備医療機関

（2017年4月現在）

国頭村立診療所	国頭村辺土名	TEL 0980-41-5380
東部へき地診療所	国頭村安田	TEL 0980-41-7511
県立北部病院	名護市大中	TEL 0980-52-2719
国立療養所沖縄愛楽園	名護市済井出	TEL 0980-52-8331
北部地区医師会病院	名護市宇茂佐	TEL 0980-54-1111
伊平屋診療所	伊平屋村我喜屋	TEL 0980-46-2116
伊江村立診療所	伊江村東江前	TEL 0980-49-2054
渡嘉敷診療所	渡嘉敷村渡嘉敷	TEL 098-987-2028
渡名喜診療所	渡名喜村渡名喜	TEL 098-989-2003
公立久米島病院	久米島町嘉手苅	TEL 098-985-5555
県立八重山病院	石垣市大川	TEL 0980-83-2525
小浜診療所	竹富町小浜	TEL 0980-85-3247
西表西部診療所	竹富町西表	TEL 0980-85-6268
大原診療所	竹富町南風見	TEL 0980-85-5516

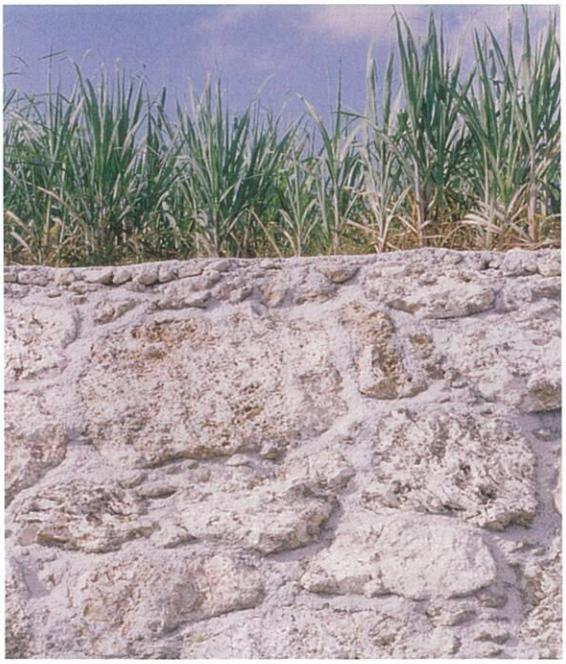
ハブ対策用事例・道具（説明・価格などは見開き内を参照）



ハブの侵入を防ぐフェンス



ハブの侵入を防ぐブロックべい



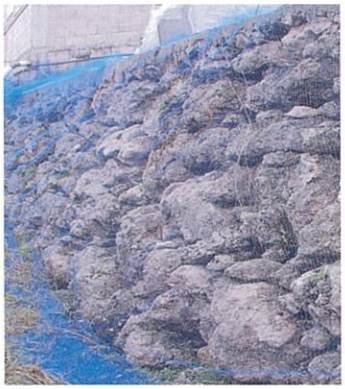
ハブが住まない石積み



ハブ捕り器



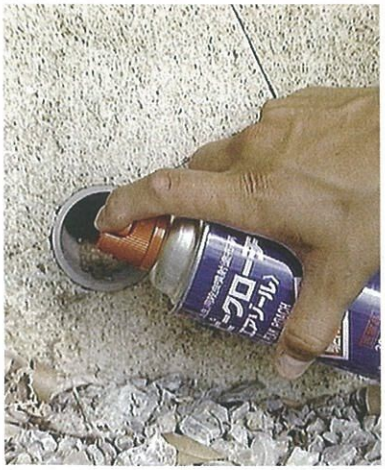
誘導式三角トラップ



刺し網



ガムテープで作るわな



殺虫スプレーで追い出す



ハブはさみ棒



ハブを殺すスプレー

■相談は各市町村役場のハブ担当課か、衛生環境研究所ハブ研究担当（TEL 098−987−8223）などへ
■道具・材料の購入は公衆衛生協会（TEL 098-945-2686）などへ

〈印刷：沖版プロセス〉

ヘビの特徴を覚えましょう

沖縄本島で見られるヘビ、表示した長さは標準～最大の全長、（　）内は方言名

危険な毒ヘビ

ハブ 1.3~2.2m

黄色か白の地に、黒い複雑な模様。ネズミやジャコウネズミ（ビーチャー）などを食べるので、人家近くにも多い。



ヒメハブ 40～80㎝

灰色か茶色に黒い斑紋。カエルやネズミなどを食べる。
（ニーブヤー、クファー）



タイワンハブ 80～130㎝



サキシマハブによく似ている。台湾や中国大陸に生息するヘビだが、本部半島東部と恩納村に定着している。特定外来生物

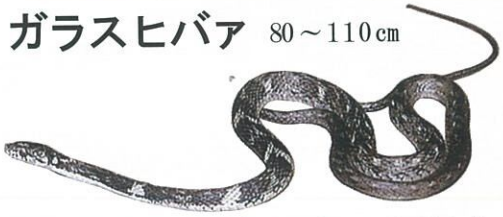
サキシマハブ 80～120㎝

茶の地に黒いギザギザ模様。もともとは八重山にいるヘビだが、糸満市南部に定着している（国内外来種）。



毒ヘビだが危険性は低い

ガラスヒバァ 80～110㎝



黒い地に白い斑紋がある。カエルなどを食べる。水辺に多い。弱い毒を持っている。



ハイ 40～55㎝

オレンジ色と黒の縦じまに白い横じま。おとなしくあまり咬みつかない。（ナナフサー）

無毒ヘビ

アカマタ 1.3~1.8m

赤と黒のしま模様。トカゲやヘビなどの爬虫類や、鳥類などを食べる。





アマミタカチホヘビ 40～60㎝

背中は茶褐色で腹は黄色。ミミズを食べる。



ブラーミニメクラヘビ 10~20cm

全身光沢のある黒色。土の中にいてミミズそっくり。



タイワンスジオ 1.8~2.7m

台湾から持ち込まれた大型のヘビ。沖縄本島中部に定着している。 特定外来生物

リュウキュウアオヘビ 70～90㎝

背中は緑色で腹は黄色。ミミズを食べる。
（オーナジャー、アオダイショウ）



■ハブ類（毒ヘビ）の飼育・保管には、県知事の許可が必要です。
■タイワンハブとタイワンスジオは、「外来生物法」により輸入・運搬・飼育等が規制されています。